

桜美林の外国語教育 — 軌跡と展望

基盤教育院 院長 足立 匡行

桜美林大学で2005年に始まった学部制から学群制への移行に伴い、現存のビジネスマネジメント学群、健康福祉学群、リベラルアーツ学群、総合文化学群の基盤となる教育を担う部署として、2007年度に基盤教育院が設立された。この改組に伴い、学群制移行以前には外国語教育センターで運営されていた外国語教育は、基盤教育院外国語教育部門に引き継がれることとなった。基盤教育院外国語教育部門では、旧外国語教育センターより引き継いだ17の外国語にポルトガル語を加え、現在18の外国語科目を提供している。(表1参照)

アラビア語	中国語
イタリア語	ドイツ語
インドネシア語	日本語
英語	ビルマ語
カンボジア語	フランス語
ギリシア語	ベトナム語
コリア語	ポルトガル語
スペイン語	ラテン語
タイ語	ロシア語

表1：桜美林大学外国語科目一覧

本学の創立時より英語と中国語は外国語の中で特に重要視されている。英語は現代社会における「国際語」であることから新入生全員の必修科目となっている。入学後、学生たちはプレースメントテストにより能力別クラスに分けられ、週4回英語の授業を受講することとなる。中国語は桜美林学園の前身である崇貞学園が創立者清水安三により中国に設立されたということもあり、大学創立当初から教えられている。中国語の授業は「中国語と中国文化の普及を目的とする」中国政府が立ち上げた孔子学院¹と協力して展開している。

2011年現在、桜美林大学では19カ国からの約425名の留学生を受け入れており、これらの留学生と日本在住の日本語を母語としない学生たちを対象とする日本語の授業も桜美林大学「外国語」の大きな特徴の一つとなっている。日本語は通常の日本語授業に加え、2011年度は「海外で日本語を教えている教員のための研修」も実施している。上記以外のイタリア語、インドネシア語、コリア語、スペイン語、タイ語、ドイツ語、フランス語などは、週2回の授業が行われている。本学の学生は学年や所属学群に係わらず、これらの

外国語を希望に応じていくつでも受講することが可能である。

また、大学で学んだ外国語を実践の場で試すことができるよう、多様な海外語学研修、企業研修、国際理解教育研修、国際協力研修も準備している。在学中に少なくとも一度は留学を体験してもらうため、海外プログラムは 96 の提携校、23 の国と地域で展開され、「数週間の短期プログラム」や「1 年の長期プログラム」などから選択できる。²

紙面に限りがあるため、最後に今後の課題について簡潔に言及したい。今後は今まで以上に外国語科目と外国語以外の科目との結びつきを深めるために、基盤教育院外の教育組織との連携をより強固にすることが必要となるはずだ。また、主に社会人向けの授業を提供しているオープンカレッジなどの公開講座との連携も、視野に入れることが必要となるだろう。

更には、公的試験の活用を進めると共に、後に記述する「桜美林言語パスポート」を採用し、外国語を学習している各学生と社会に向けて学習結果を客観的に示すことができるシステム作りも、取り組むべき課題のひとつとなる。

注

¹ 桜美林大学孔子学院ホームページ <http://kongzi.obirin.ac.jp/> 参照。

² 『桜美林大学 学び案内 2011』桜美林大学